

本邦産蝸牛ヲ中間宿主トセル一新吸蟲—Mesocoelium brevecaecum n. sp.—竝其ノ發育史ニ就テ

神戸船員病竝熱帯病研究所 (所長桂田博士)

越 智 シ ゲ ル

目 次

緒 言	第5節 被囊幼蟲
第1章 本吸蟲ヲ發見スルニ至リタル次第	第5章 「ヒダリマキマイマイ」ニ於ケル「スポロシ スト」中ノ被囊幼蟲ヲ以テセル試食動物實 験
第2章 本吸蟲ノ構造及ビ形態	第6章 終末宿主體內ニ於ケル本種吸蟲ノ發育狀態
第3章 本吸蟲ノ卵子	第7章 本吸蟲ノ終末宿主ニ就テ
第4章 本吸蟲ノ發育史	第8章 結 論
第1節 第1中間宿主	文 獻
第2節 「スポロシスト」	
第3節 本吸蟲ノ「ツエルカリア」	
第4節 「スポロシスト」内ニ於ケル被囊幼蟲ノ形 成	

緒 言

最近我が國ニ於ケル寄生蟲學ハ著シク發達シ、特ニ人體寄生吸蟲類及ビ其他諸種吸蟲類ノ發育ニ關シテハ甚シク知見ヲ加ヘタリ。而シテ是レ等ノ吸蟲類ハ發育上其ノ多クハ本邦ニ於ケル一定ノ淡水産魚貝類ヲ中間宿主トシテ發育蔓延スルモノナルコトノ知ラレテヨリ、此ノ種魚貝類ハ吸蟲類ノ發育史竝豫防醫學上極メテ重要ナル意義ヲ附セラルルニ至リタリ。

然レドモ陸産貝類ト吸蟲類トノ關係ニ就テハ從來殆ド度外視セラレタルノ感アリテ、全ク未解決裡ニ屬スルモノナリト謂フヲ得ベシ。

余ハ偶々桂田博士指導ノ下ニ、最近淺田氏ニ依リ本邦産蝸牛ノ1種「ヒダリマキマイマイ」ニ於テ發見證明セラレタル1種ノ「ツエルカリア」及ビ被囊幼蟲ニ就キ、同氏ノ厚意ニ依リ其ノ發育ニ關スル研究ヲ進メ、遂ニソハ之ヨリ先キ余ガ淡水棲昆蟲ノ幼蟲ニ於テ認メタル一新被囊幼蟲ノ發育試驗ニ際シ、蝦蟇 (*Bufo Vulgaris japonicus*) ノ腸管内ニ於テ證明シタル1種ノ吸蟲ニ其ノ體制全ク一致セルモノナルコトノ事實竝其ノ發育史ヲ明ニスルコトヲ得タリ。尙余ハ之ト共ニ本蟲ハ五島理學博士ノ御指導ヲ仰ギ正シク一新吸蟲ニ屬セシムベキモノナルコトノ御教示ヲ得タルニ由リ、茲ニ本吸蟲ノ發育ニ關スル知見ノ概要ヲ報告シ、先輩者家ノ高教ヲ仰ガント欲ス。

第 1 章 本吸蟲ヲ發見スルニ至リタル次第

余ガ本種吸蟲ヲ發見スルニ至リタル動機ハ曩ニ余ガ山口縣小野田地方ニ於ケル一定ノ淡水棲昆蟲ノ幼蟲ニ於テ證明セル一新被囊幼蟲ノ發育ニ關スル研究ニ際シ、之ヲ「にほんひきがへる」ノ小腸内ニ發見シ、次テ其ノ發育史ヲ闡明シ得タルモノナリ。

而シテ余ハ此ノ吸蟲ニ就テハ東京帝國大學名譽教授五島理學博士ノ指導並御教示ヲ仰ギタリ。

然ルニ時恰モ東京帝國大學理學部動物學教室ニ於ケル尾崎佳正氏ハ余ノ證明セル母蟲ト同種ノ吸蟲ヲ既ニ所藏セラレタルモ、氏ハ格別ノ厚意ヲ以テ余ニ此ノ吸蟲ノ發表ヲ委託セラレタリ。而シテ本吸蟲ハ五島博士ノ御教示ニヨリ *Mesocoelium* 屬吸蟲ノ一新種ナルコトヲ決定セラルルニ至レリ。

余ハ茲ニ五島博士ノ御懇篤ナル御指導ト尾崎佳正氏ノ多大ナル御厚意ニ對シ衷心感謝ノ意ヲ表ス

第 2 章 本吸蟲ノ構造及ビ形態

1. 外形

本蟲ハ腸「ゲストマ」トシテハ中等大ナル吸蟲ニシテ、形ハ橢圓形乃至長橢圓形ニシテ、正常ナル固定状態ニ於テハ概ネ橢圓形ヲ呈ス。生鮮ナルモノハ伸長時ニ在リテハ著ク細長ト成リ、短縮スルトキハ卵圓形ニ縮小ス。體ハ中央部ニ於テ幅最も廣ク、之ヨリ前後ニ少シク狹小セリ。前端部ハ稍鈍圓ナレドモ後端部ハ前極ヨリモ甚シク細狹ナリ。體ノ横斷面ハ扁平ニシテ横橢圓形ヲナシ、前體部ハ後體部ヨリモ遙ニ肥厚セルヲ認ム。

2. 大サ

本蟲ノ大サハ最も成熟セル個體ニシテ適度ナル壓迫ヲ加ヘタル固定標本ニ於テハ、長徑 2.3—2.9 mm (平均 2.7 mm) ニシテ幅徑ハ 0.8—1.35 mm (平均 1.2 mm) アリ。生態時ニ於ケル測定數ハ短縮時ニ在リテハ長徑 1.2—1.6 mm 幅徑 0.9—1.3 mm ニシテ、伸長時ニハ長徑 2.7—3.4 mm ニ達ス。

3. 外皮

體ノ外表ニハ同質性硝子様ノ角皮層ヲ有ス。其ノ厚サ 0.009—0.01 mm アリ、而シテ此ノ層ニハ皮棘ノ發生ヲ認ム、前端部ハ纖小ニシテ密生シ體ノ中央部ハ疎大ニシテ後端部ハ漸次短小シ後極ノ稍上部ニ於テ消失ス。皮棘ノ形ハ短圓錐形ニシテ大サハ概ネ腹吸盤ノ高サニ於テハ長徑 0.019—0.02 mm ニシテ幅徑 0.0035 mm ナリ。皮棘ノ縱徑ノ間隔ハ 0.016—0.0175 mm ニシテ之等ノ皮棘ハ角皮層ヲ貫キ後外方ニ向ツテ發生ス。

4. 吸盤

口吸盤ハ體ノ前端腹面ニ位シ、形略圓形乃至橢圓形ニシテ、縱徑 0.225—0.34 mm (平均 0.25 mm) ニシテ幅徑 0.235—0.375 mm (平均 0.26 mm) アリ。腹吸盤ハ體ノ前方 $\frac{1}{6}$ ノ境界線上ニテ腹面正中線ニ位ス、形ハ略正圓形乃至球狀ニシテ、其ノ大サハ口吸盤ヨリモ稍小ニシテ、縱徑 0.175—0.24 mm (平均 0.185 mm) ニシテ幅徑 0.18—0.24 mm (平均 0.190 mm) ナリ。

5. 消化管

口吸盤内ニ存スル口腔ニ始マリ、短キ前咽頭ヲ經テ筋肉性構造ヨリ成ル咽頭アリ、咽頭ハ稍横橢圓形ニシテ縦断面ハ腎臓形ヲ呈ス、咽頭ノ大サハ縦徑 0.05—0.075 mm (平均 0.07 mm) ニシテ横徑 0.075—0.095 mm (平均 0.085 mm) アリ。直ニ食道ニ移行ス。食道ハ著ク短ク、長サ 0.075—0.1 mm ニシテ幅徑 0.075—0.08 mm アリ、次デ左右ノ腸管ニ分岐ス。

腸管ハ本種ニアリテハ甚短ク、左右ニ分岐スルヤ各々體ノ下方ニ向ヒ鈍角ヲナシテ腹吸盤ノ兩側部ニ下行シ、其ノ下端ハ腹吸盤ノ上縁或ハ其ノ下際ニ略一致シテ盲端ニ終ル。然レドモ個體ニヨリテハ固定時ノ種々ナル状態ニヨリ腸管ノ末端ハ該吸盤ノ下際ヨリモ稍下方ニ迄下垂シテ認めラルモノアリ。又左右兩腸脚ノ長サハ概ネ同長ナレドモ、左腸管ハ右腸管ニ比シ稍長キモノアルヲ認めラレ、必シモ同長ナラザルコトアリ。

腸管内ニハ常ニ微細顆粒狀ニシテ淡黄乃至淡灰色ノ内容物ヲ包含セリ。

6. 排泄器

排泄器ハ體ノ後端部ヨリ細管狀ヲ以テ發シ、體ノ兩側部ニ近ク彎曲上行シ咽頭兩側縁ニ到達シ、口吸盤ノ周圍頭部ヨリ下行シ來ル細管ト合流シ、體側縁ヲ屈彎シ下行シ、腹吸盤ノ下端ニテ排泄囊ノ兩分翼ノ底部ニ開口ス。

排泄囊ハ甚細長ニシテ體ノ後半部ノ正中線ニアリテ Y 字狀ヲ呈ス。頂端ハ腹吸盤ノ下端ニ於テ左右ニ分岐ス。

7. 生殖器

甲 (雄性生殖器)

雄性生殖器ニハ睾丸、輸精管、貯精囊、攝護腺、射精管ヲ區分セラル。

1) 睾丸ハ體ノ上部腹吸盤ノ兩側部ニテ兩腸管トノ間ニ並列シ 1 對ヲナス。形ハ球狀乃至橢圓形ニシテ表面ノ邊緣ハ平滑ナリ。一般ニ左右兩睾丸ハ其ノ大サ略同大ナリ、即チ長徑 0.15—0.2 mm, 短徑 0.075—0.15 mm アリ。

2) 輸精管ハ睾丸ノ前縁特ニ上内端部ヨリ發セル細管ニシテ、各側上内方ニ走行シ貯精囊ノ後端ニ接續ス。

3) 貯精囊ハ腸分岐部ノ直下際ニテ腹吸盤トノ間ニアリ、形ハ長橢圓形ノ囊狀體ニシテ後端部ハ鈍圓ニシテ前端ハ狭小ナリ、其ノ長軸ハ概ネ腸管ニ並行シ、多少移動性アリテ左側或ハ右側ニ偏在スルコトアリ。其ノ大サハ長徑 0.15—0.215 mm, 幅徑 0.075—0.095 mm アリ。

4) 攝護腺部及ビ射精管、貯精囊内ノ精囊ハ約其ノ後半部ヲ占メ之ヨリ發スル射精管ノ前端部ハ攝護腺細胞ニヨリテ圍繞セラル、射精管ハ内上方ニ向ヒ子宮生殖門ト對向シテ開口ス。

乙 (雌性生殖器)

雌性生殖器ハ卵巢、受精囊、卵黃巢、卵黃管、輸卵管、ラウレル氏管、モーリス腺及ビ子宮ヨリ成ル。

1) 卵巢ハ腹吸盤ノ右側下際ニテ右睾丸ノ直下部ニ位シ、腸管トノ關係ハ常ニ必シモ一様ナラズシテ、腸管ノ短縮状態ニ於テハ略其ノ下端部ニ位置スルモ、伸長時ニ在リテハ稍其ノ内側ニ見ラルルコトアリ。

形ハ球形ニシ邊縁平滑ナリ、大サハ直徑 0.1—0.175 mm ヲ算ス。

2) 受精囊ハ腹吸盤ノ下部卵巢ノ内側ニテ正中線ニ位シ、下端ハ鈍圓ニシテ上端ハ狭小ナル囊狀體ニシテ精系ヲ充滿ス。大サハ長徑 0.085—0.13 mm、幅徑 0.045—0.065 mm アリ。

3) 卵黄巢ハ帶黃暗褐色ノ顆粒體ノ集團ニシテ、咽頭ノ兩側下端部ヨリ腸管ノ上際ニ互リ局限シテ存在シ、其ノ濾胞性顆粒ハ球狀乃至不正長橢圓形ニシテ長軸徑ハ 0.03—0.045 mm アリ。

4) 卵黄管之等ノ顆粒ヨリ發セル卵黄細管ハ相合シ左右各 1 條ノ卵黄管トナリ、右側ニ在リテハ右睾丸ト卵巢トノ間ヲ内側ニ向ツテ下降シ、左側ニ於テハ左睾丸ノ下際ヲ内走シ受精囊ノ直前ニテメーリス腺トノ間ニテ相合セリ。

5) 輸卵管ハ卵巢ノ左側ヨリ發シタル細管ニシテ内下方ニ向ヒ、受精囊ノ上部ニテラウレル氏管ト連リ更ニ卵黄管ト合シ、受精囊ノ右上方ニ於テ腹側ニ近ク子宮上腔ニ移行ス。

6) メーリス腺ハ顆粒狀ヨリ成ル分泌腺ニシテ、受精囊ノ上部ニテ腹吸盤ノ下端ニ存在ス。

7) ラウレル氏管ハ受精囊ノ右上端ニテ連結シタル細長ノ管ニシテ、受精囊ト卵巢トノ間ヲ右上方ニ走り、子宮始部ニテ更ニ卵黄管ニ連リ漸次背面ニ向ヒテ走行シ背側ニ開口ス。

8) 子宮ハ腹吸盤以下ノ後體部ノ $\frac{3}{5}$ ヲ占メ、成熟セル個體ニ於テハ甚シク卵子ヲ充滿シ漸ク排泄囊ニヨリ左右ニ於ケル子宮ノ分佈ヲ區別セラル、即チ子宮ハ卵巢及ビ受精囊ノ下部ヨリ起リ、體ノ左側ヲ曲折彎行シ體ノ下端部ニ到リ右ニ彎曲シテ右ニ上走シ、右腸管ノ末端及ビ卵巢ノ下際ヨリ左側ニ横走シ、次デ左睾丸ト腹吸盤トノ間ヲ上行シ、貯精囊ニ接近シ生殖口ニ開口ス。

紋上ノ體制ヲ通覽スルニ、本吸蟲ハ Mesocoelium 屬吸蟲ノ一新種ニ屬セルモノナリ。

余ハ茲ニ五島理學博士ノ御教示ニ依リ本吸蟲ニ次ノ如ク命名ス。

Mesocoelium brevicæcum n. sp.

第 3 章 本吸蟲ノ卵子

本蟲ノ成熟卵子ニシテ糞便中ニ排泄セラレタルモノハ淡黃淡褐色ニシテ、形ハ正卵圓形ヲ呈シ、卵殼ハ 2 重ノ境界線ニヨリ構成セラレ其ノ厚サ 0.0015—0.0017 mm アリ、卵ノ大サハ長徑 0.0475—0.0485 mm (平均 0.0481 mm) ニシテ幅徑 0.0275—0.03 mm (平均 0.028 mm) ヲ算ス。卵ノ最大幅廣部位ハ長軸ノ略中央部乃至稍其ノ下部ニシテ之ヨリ前後ニ狭細ト成レリ。卵ノ後半部ハ前極ト殆ド同一又ハ之ヨリモ僅ニ鈍圓ナリ。然レドモ又中ニハ前極ニ比シ反テ細狭ナルモノアリ。卵ノ後端ハ卵殼僅ニ肥厚シテ認メラルルモノノ如ク時ニ小結節様ノ像ヲ認メラルルモノアリ。前極ハ漸次狭小シソレニ明瞭ナル小蓋ヲ有ス。此ノ小蓋ノ接合セル後體卵殼ノ接續

縁ハ微ニ隆起ス、小蓋ノ高サハ0.004—0.005mmニシテ開口部ノ直徑ハ0.012—0.0135mmアリ。

卵殻内ニハ1箇ノ發育セル仔蟲ヲ藏ス、形ハ通常梨子狀形乃至卵圓形狀ヲ呈シ、大サハ長徑0.0325—0.035mm(平均0.0332mm)幅徑0.0225—0.025mm(平均0.0236mm)アリ。

仔蟲ノ體ノ前端ハ概ネ細狭ニシテ中央ニ1本ノ刺棘ヲ有ス。體ノ後端ハ鈍圓ナリ、體表ニハ極メテ微細ナル氈毛ノ發生ヲ見ル。仔蟲ノ前緣及ビ後端部ニハ微細ナル淡黃色ノ球狀顆粒體ノ聚簇セルモノアリ。コノ顆粒ハ即チ恐ラクハ1種ノ類脂肪體ニシテ卵黃細胞ノ分化ニヨリ遺サレタル殘存物質ト看做サルベキモノナラント信ズ。

本蟲卵子10箇ニ就キ其ノ大サヲ測定セル成績ヲ表示スレバ次ノ如シ。

第 1 表

番 號	卵 ノ 大 サ		仔 蟲 ノ 大 サ	
	長 徑	幅 徑	長 徑	幅 徑
1	0.0485	0.03	0.035	0.0225
2	0.0475	0.0275	0.0325	0.025
3	0.0485	0.03	0.03	0.0225
4	0.0475	0.029	0.0325	0.0225
5	0.0485	0.0275	0.0325	0.023
6	0.0475	0.28	0.035	0.025
7	0.0485	0.0285	0.034	0.0235
8	0.0480	0.0285	0.034	0.025
9	0.0485	0.029	0.0325	0.0235
10	0.0485	0.028	0.0345	0.0235
	0.0475—0.0485 (0.0481)	0.0275—0.03 (0.0286)	0.0325—0.035 (0.0332)	0.0225—0.025 (0.0236)

第 4 章 本吸蟲ノ發育史

第 1 節 第 1 中間宿主

本吸蟲ノ第1中間宿主ハ蝸牛ノ1種ニ屬シ和名ヲ「ひだりまきまいまい」ト稱セラルルモノナリ。

學名 *Euhadra quaesita* (Deshayes)

本種「ツエルカリア」ノ第1中間宿主體內ニ於ケル寄生部位ハ、主トシテ「ひだりまきまいまい」ノ生殖腺ナレドモ亦肝臓ニ於テモ之ヲ認ム、之等ノ臟器ニ「スポロシスト」ノ群居シテ成育シ漸ク其ノ體內ニ「ツエルカリア」ヲ形成スルノ時期ニ達スルヤ、生殖腺ニ在リテハ其ノ寄生部

位著ク増殖シ淡黄帶白色ニ變化シ、又肝臓ニ於テハ散在性ニ淡灰帶白色ノ「スポロシスト」ノ集團ヨリ成ル變化ヲ認メラルモノナリ。

本種「ツエルカリア」ノ「ひだりまきまい」ニ寄生セル寄生竝分佈状態ハ余ガ広島縣備後地方ニ於テ採集シタル材料ニ於テハ216箇中9箇ニ於テ其ノ寄生ヲ認メタリ。

第2節 「スポロシスト」

本種「スポロシスト」ハ形細長キ袋状ヲ呈シ兩端部ハ稍狭小セリ。其ノ色ハ淡白色、囊壁ハ透明ニシテ色素顆粒等ノ沈着ヲ見ズ。運動性ヲ有セズ、大サハ長徑1.5—4.25 mmニシテ、幅徑0.35—0.475 mmナリ。囊内ニハ成熟「ツエルカリア」及ビ其ノ他種々ノ發育階梯ニアル細胞ノ集團ヲ認メラレ、1「スポロシスト」内ニハ通常數箇ノ成熟「ツエルカリア」ト未成熟「ツエルカリア」ヲ藏シ、其ノ總數ハ15箇—30箇ヲ算ス。

囊内ニ於ケル成熟「ツエルカリア」ハ自動的ニ容易ニ運動セルモノアルヲ認メラル。而シテ其ノ成熟「ツエルカリア」ニ達セルモノノ内ニハ既ニ「スポロシスト」内ニ在リテ容易ニ被囊ヲ形成シ被囊幼蟲ニ達シ、ココニ於テ發育ヲ遂ゲ、感染力ヲ保有スルニ至ルノ特有性ヲ有スルモノナリ。

1「スポロシスト」内ニ形成セラルル被囊幼蟲ノ數ハ概ネ2箇乃至3箇ナレドモ又全ク之ヲ認メラザルモノアリ。

第3節 本種吸蟲ノ「ツエルカリア」

本種「ツエルカリア」ハ形通常長橢圓形ニシテ大サハ長徑0.345—0.46 mm (平均長徑0.35 mm)ニシテ幅徑0.165—0.24 mm (平均0.23 mm)アリ。體ハ無色半透明ニシテ帶灰色ヲ呈シ、體表ニハ極メテ微細ナル皮棘ノ發生ヲ認メラル、前體部ニ於テハ特ニ密生セリ。

口吸盤ハ體ノ前端裏面ニ在リテ腹吸盤ヨリモ遙ニ著大ニシテ、其ノ大サハ縱徑0.086—0.12 mmニシテ橫徑0.09—0.125 mmアリ。

口吸盤ノ下方ニ咽頭アリ、咽頭ハ縱徑0.03—0.035 mmニシテ直ニ食道ニ移行ス、食道ハ長サ0.075—0.125 mmニシテ其ノ下端ハ左右ノ腸脚ニ分岐ス。分岐セル腸脚ハ各々外下方ニ向ヒ、通常腹吸盤ノ中央ノ高サニ於テ盲端ニ終ル、腸脚ノ長サハ左右略同長ニシテ長徑0.065—0.12 mm幅徑0.035—0.042 mmアリ。

腹吸盤ハ體長徑ノ略中央部、正中線ニ在リテ、形ハ球狀乃至橫橢圓形ナリ。大サハ口吸盤ヨリ稍小ク縱徑0.054—0.063 mmニシテ橫徑0.06—0.075 mmアリ。

本種「ツエルカリア」ニハ前體部ノ咽頭ト腹吸盤トノ間ニ食道ヲ隔テ左右ニ1對ノ腺細胞部アリ。又口吸盤ノ後背上部ノ正中ニ1本ノ短大ナル頭刺アリ。腺細胞ハ左右各7箇ノ細胞ヨリ成リ、此ノ細胞ニハ1箇ノ明瞭ニ認メラルル核アリ。胞體ニハ微ニ淡黄淡褐色ノ色素顆粒ヲ點在ス。腺細胞ヨリ發セル導管ハ左右相集合シテ上行シ、口吸盤ノ外側縁部ヨリ後背ニ上行シ、頭

刺ノ基根部ニ終止セリ。頭刺ハ口吸盤ノ後背上縁ノ正中線ニ位シ、形ハ鈍尖狀ヲ呈シ、大サハ長サ 0.0115—0.0125 mm ニシテ根部ノ幅徑 0.005 mm ナリ。

此ノ頭刺ノ基根部ニハ之ヲ圍ミテ發生セル微小ナル小刺ノ發生セルヲ認ム、腸管ノ内側ニテ腹吸盤ノ兩側ニハ略球狀ノ舉丸原基アリ、其ノ大サ 0.027—0.041 mm アリ。

腹吸盤ノ右下際ニテ右舉丸原基ノ下部ニハ卵巢ノ原基ヲ認ム、形ハ球狀ニシテ舉丸原基ト略同大ナリ。

排泄囊ハ卵巢原基以下ノ後體部ノ大部分ヲ占有セル不正形「ハート」狀ノ囊ニシテ内ニ帶灰淡黃色ノ顆粒ヲ見ル、本「ツエルカリア」ニハ眼點ヲ有セス。

第 4 節 「スポロシスト」中ニ於ケル被囊幼蟲ノ形成

本種「ツエルカリア」ハ「スポロシスト」内ニ於テ發育スルヤ漸次其ノ體內ヲ辭去シ、更ニ第 2 中間宿主體內ニ浸入シ被囊幼蟲ニ成育シ寄生生活ヲ營ムヲ通則トスルモノノ如シ、然レドモ、ココニ興味アルハ成熟セル「ツエルカリア」ノ一定數ニ在リテハ、此ノ「スポロシスト」自體內ニテ既ニ完全ナル被囊幼蟲ニ發育シ得ルコトニシテ、且之等ノ「スポロシスト」内ニ形成セラレタル被囊幼蟲ハ、動物實驗上明ニ感染能力ヲ保有セルモノナリ、而シテ「ヒダリマキマイマイ」1 箇體内ノ「スポロシスト」内ニ生ジタル總數ハ決シテ尠ナカラズ。

「スポロシスト」内ニ發育セル「ツエルカリア」ト被囊幼蟲トノ關係ヲ表示スレバ次表ノ如シ。

第 2 表

番 號	「スポロシスト」ノ大サ		「スポロシスト」内ニ於ケル「ツエルカリア」及ビ被囊幼蟲ノ數		摘 要
	長 徑	幅 徑	成熟「ツエルカリア」	被 囊 幼 蟲	
1	2.65	0.36	4	2	21 未成熟「ツエルカリア」數
2	3.55	0.41	3	3	20
3	4.15	0.455	6	4	21
4	3.75	0.375	5	3	23
5	4.25	0.475	4	3	25
6	3.5	0.385	3	2	20
7	2.4	0.375	3	1	19
8	3.75	0.45	5	2	18
9	1.85	0.395	4	3	17
10	1.5	0.35	2	2	15
	1.5—4.25	0.35—0.475	2—6箇	1—4箇	

1「スポロシスト」内ニ形成セラレタル「ツエルカリア」ノ總數ハ通常 15 箇乃至 30 箇ニシテ、其ノ内成熟「ツエルカリア」ト看做サルモノハ 2 箇乃至 6 箇ニシテ、他ハ種々ノ發育階級ニアル未成熟「ツエルカリア」ナリ、又被囊幼蟲ノ實數ハ概ネ 2 箇乃至 6 箇ヲ算ス。

第 5 節 被囊幼蟲

本種「ツエルカリア」ハ「スポロシスト」自體內ニ於テ被囊ヲ形成スルノ特有性ヲ有シ成熟被囊幼蟲ニ達シ、正シク感染力ヲ有スルニ至ルノ事實ヲ認メラルルノ他、第 1 中間宿主（「ヒダリマキマイマイ」）自體ノ肝臟實質内及ビ外陰膜ノ組織内ニ於テモ成熟被囊幼蟲ニ達セルヲ認メラルルモノナリ。

本種被囊幼蟲ハ形通常圓形乃至橢圓形ニシテ、被囊ハ稍菲薄透明ニシテ其ノ厚サ 0.003—0.0035 mm アリ。被囊幼蟲ノ大サハ長徑 0.26—0.3 mm, 短徑 0.245—0.275 mm ナリ。被囊内ニ於ケル幼蟲ハ、2 重ニ屈曲シテ存スルコトハ甚稀有ニシテ、通常ハ垂直ニ短縮シテ認メラル。體表ニハ微細ナル短キ皮棘アリ、前體部ハ密ナルモ後體部ハ稍疎薄ナリ。

口吸盤ハ體ノ前端部ノ腹面ニ在リテ、外口ハ前上方ニ向ヒ概ネ多少壓平セラレ横橢圓形ナリ。縱徑ハ 0.05—0.095 mm ニシテ横徑 0.053—0.096 mm (最大横徑 0.12 mm) アリ。口吸盤ノ下部ニハ明瞭ナル咽頭アリ、咽頭ノ大サハ縱徑 0.035—0.042 mm, 横徑 0.03—0.045 mm ナリ。

食道ハ甚シク短縮セラレ直ニ左右ノ兩腸管ニ分岐ス、腸管ハ本種ニ於テハ甚短ク、左右殆ド水平ニ或ハ僅ニ外下方ニ向ヒ盲端ニ終ル。腸管ハ長サ略同等ニシテ長サ 0.11—0.145 mm, 幅徑 0.03—0.045 mm ナリ。

腹吸盤ハ體ノ略中央ノ正中線ニ在リテ、稍壓平セラレ橢圓形ヲ呈シ、縱徑 0.055—0.065 mm, 横徑 0.065—0.085 mm アリ。

腹吸盤ノ兩側部ニハ球狀乃至橢圓形ノ嚢丸原基アリ。大サ殆ド同大ニシテ長徑 0.04—0.052 mm, 短徑 0.032—0.041 mm ナリ。

右嚢丸原基ト腹吸盤トノ下際ニハ球狀ノ卵巢原基ヲ認ム。

體ノ後半部ニハ不正形「ハート」狀ヲ呈セル暗黒色ノ大ナル排泄囊アリ、囊ノ大サハ縱徑 0.06—0.08 mm, 横徑 0.095—0.12 mm ニシテ、囊内ニハ暗黒色ノ顆粒ヲ充滿ス。

咽頭ノ下際ノ兩側部ニハ腺細胞ノ集團アリ、之ヨリ發生セル導管ハ相集合シテ上行シ、口吸盤ノ外側方ヲ廻リ後背上部ニ對向シテ終止ス。而シテ此ノ部ヨリ 1 本ノ短大ナル頭刺ノ發生ヲ見ル、然レドモ頭刺ハ被囊幼蟲ノ成熟スルニ至ルヤ多クハ脱落スルヲ普通トスルモ、又 1 部ニハ尙ホ殘存シテ認メラルルモノアリ。

第 5 章 「ヒダリマキマイマイ」ニ於ケル「スポロシスト」 中ノ被囊幼蟲ヲ以テセル試食動物實驗

陸産「ヒダリマキマイマイ」ノ生殖腺ニ發育セル「スポロシスト」内ニ形成セラレタル本種被囊幼蟲ハ、果

シテ如何ナル動物ヲ終末宿主トシテ發育寄生シ得ルモノナルヤ、又何レカノ宿主動物体内ニ發育シ得ル可能性アリトセバ、如何ナル種類ノ成蟲ニ發育シ得ルモノナルカノ事實ヲ確認セント欲シ、余ハ之ヲ白鼠、仔犬、家鶏、十姉妹、とのさまがへる、つちがへる、うしがへる、蝦蟇ニ就テ試食實驗ヲ行ヒタリ。

實驗成績ヲ一括表示スレバ次表ノ如シ。

第 3 表

番 號	實驗動物 種 別	試食實驗年月日 (昭和 3 年)	試食セシメタル 被囊幼蟲ノ種別	檢 索 月 日 (昭和 3 年)	經過 日數	成績	摘 要
1	白 鼠	10月 2 日午前10時	「スボロシスト」内 ニ於ケル被囊幼蟲 80箇	10月 3 日午前10時	24時間		小腸下部ニ脱囊幼蟲ヲ 認ム
2	◇	◇	◇ 50	10月 4 日午前10時	2日	—	
3	◇	◇	◇ 50	10月 7 日午前10時	5日	—	
4	仔 犬	◇	◇ 50	10月 8 日午前10時	6日	—	
5	◇	◇	◇ 50	10月 11 日午前10時	7日	—	
6	家鶏(雛)	◇	◇ 38	10月 5 日午前10時	3日	—	
7	◇	10月 2 日午後 1 時	◇ 30	10月 7 日午後 1 時	5日	—	
8	十 姉 妹	◇	◇ 50	10月 4 日午後 1 時	2日	—	
9	◇	◇	◇ 30	10月 7 日午後 3 時	5日	—	
10	◇	◇	◇ 50	10月 11 日午後 1 時	9日	—	
11	とのさま蛙	10月 2 日午前10時	◇ 31	10月 3 日午前 9 時	23時間	(+)	脱囊セル幼蟲ヲ認ム
12	◇	10月 4 日午後 1 時	◇ 28	10月 9 日午後 3 時	5日 2時間	(—)	
13	つち 蛙	10月 2 日午前10時	◇ 45	10月 4 日午後零時	2日 2時間	(+)	小腸中部ニ幼蟲ヲ認ム
14	◇	10月 4 日午後 1 時	◇ 32	10月 8 日午後 1 時	4日	(+)	幼蟲13條認ム
15	うしがへる	10月 2 日午前10時	◇ 27	10月 3 日午前 8 時	22時間	(+)	小腸中部ニ幼蟲ヲ認ム
16	◇	◇	◇ 35	10月 9 日午前10時	7日	(+)	幼蟲27條
17	◇	10月 4 日午後 1 時	◇ 50	10月 14 日午後 1 時	10日	(+)	◇ 31條
18	蝦 蟇	10月 2 日午後 1 時	◇ 37	10月 5 日午後 1 時	3日	(+)	◇ 21條
19	◇	10月 4 日午後 1 時	◇ 42	10月 5 日午後 2 時	25時間	(+)	小腸中部ニ幼蟲ヲ認ム 幼蟲19條
20	◇	◇	◇ 70	10月 9 日午後 1 時	5日	(+)	◇ 52條
21	◇	◇	◇ 40	10月 13 日午前 8 時	7日 2時間	(+)	◇ 16條
22	◇	10月 5 日午前11時	◇ 35	10月 15 日午前11時	10日	(+)	◇ 21條
23	◇	◇	◇ 27	10月 20 日午前11時	15日	(+)	◇ 27條
24	◇	◇	◇ 30	10月 30 日午前11時	25日	(+)	◇ 18條
25	◇	◇	◇ 40	11月 2 日午前11時	28日	(+)	◇ 12條
26	◇	◇	◇ 53	◇	28日	(+)	◇ 23條
27	◇	◇	◇ 32	11月 4 日午前11時	30日	(+)	◇ 16條
28	◇	◇	◇ 30	11月 9 日午前11時	35日	(+)	◇ 17條

上表ニ示スガ如ク余ハ該蝸牛ノ生殖腺ニ發育セル「スポロシスト」内ニ於ケル1種ノ被囊幼蟲ヲ「スポロシスト」自體內ニ存在セル状態ニ於テ試食動物實驗ヲ試ミタリ。即チ第1回試験ハ昭和3年10月2日「ヒダリマキマイマイ」ニ寄生セル「スポロシスト」ノ集團ヲ適度ニ取り、顯微鏡下ニ於テ被囊幼蟲ノ實數ヲ計測シタル後、之ヲ白鼠3頭、仔犬2頭、家鶏2羽、十姉妹3羽、とのさまがへる1匹、つちがへる1匹、食用蛙2匹、蝦蟇1匹ニ試食セシメタルニ、白鼠及ビ仔犬ノ如キ哺乳動物ニ在リテハ白鼠ニ於テ試食後24時間ニシテ脱囊幼蟲ノ少數ヲ認メタルノ外、2日以降ニ於テハ全然幼蟲ノ寄生ヲ認ムル能ハザリキ。又家鶏及ビ十姉妹ニ於テモ悉ク陰性ナリシガ、之ニ反シとのさまがへる、つちがへる、食用蛙、蝦蟇ニ在リテハ試食實驗後22時間以降7日間ヲ經過セルニ一定度ニ發育セル幼蟲ノ寄生事實ヲ認メ得タリ。余ハ茲ニ於テ本蟲ハ哺乳動物及ビ鳥類ニ在リテハ全ク感染發育不可能ナル事ノ概念ヲ得タリ。

次テ第2回試験ハ10月4日とのさまがへる1匹、つちがへる1匹、食用蛙1匹、蝦蟇3匹ニ試食實驗ヲ行ヒタリ、然ルニ蝦蟇ヲ除ク3種ノ蛙ニ在リテハ幼蟲ノ發育甚緩漫ナルヲ認メタレドモ、蝦蟇ニ於テハ發育良好ニシテ何レトモ本種幼蟲ノ一定度ニ發育寄生セルヲ認メタリ。

第3回試験ハ10月5日蝦蟇7匹ニ就テ試食實驗ヲ試ミタルニ悉ク感染發育シ試食後25日以後ニハ糞便中ニ固有卵子ヲ排泄スルニ至リ明ニ母蟲ニ達スルノ事實ヲ確メ得タリ。

之ヲ要スルニ本蟲ハ固有宿主體內ニ於テハ其ノ小腸内ニ於テ容易ニ感染發育シ成蟲ニ達シ寄生生活ヲ營ムモノニシテ實驗的ニハ蝦蟇、食用蛙、つちがへる、とのさまがへるハ本蟲ノ終末宿主タリ得ルモノナリ。

第6章 終末宿主体内ニ於ケル本種吸蟲ノ發育状態

余ハ本種吸蟲ノ終末宿主体内ニ於ケル發育の推移ヲ知ルハ又一面本蟲ノ發育史研究ノ上ニ大切ナルコトト思ヒ、成熟被囊幼蟲ヲ以テ數匹ノ蝦蟇ニ試食實驗ヲ行ヒタル後、24時間目、7日目、15日目、25日目ト各一定ノ間隔ヲオキテ屠殺シ以テ其ノ寄生並發育状態ヲ檢シタリ。

即チ試食後24時間ヲ經過セル幼蟲ハ未ダ發育僅微ニシテ脱囊直後ノモノト大差ナク、形ハ運動静止状態ニ於テハ通常長橢圓形ニシテ、大サハ長徑0.375—0.55 mm、幅徑0.17—0.05 mmアリ、體表ニハ微細ナル皮棘ノ發生ヲ認ム。口吸盤ハ著大ニシテ縱徑0.09—0.115 mm、横徑0.09—0.12 mmアリ、口吸盤ノ背面上部ニ發生セル頸刺ハ既ニ脱落ス。然レドモ咽頭ノ兩側部ニ於ケル頸腺細胞ビ口吸盤ノ兩側ニ沿ヒテ上行セル同細胞ヨリ發セル導管ハ僅ニ其ノ殘存ヲ認メラル、口吸盤ノ下部即チ前咽頭ハ甚短ク次テ咽頭アリ、咽頭ハ縱徑0.035—0.04 mm、幅徑0.032—0.04 mmアリ。

食道ハ長サ0.06—0.08 mm、幅徑0.20—0.025 mmアリテ直ニ左右ノ兩腸管ニ分岐ス。腸管ハ左右略同長ニシテ長徑0.09—0.135 mm、幅徑0.035—0.04 mmアリ。腹吸盤ハ體ノ略中央ノ正中線上ニアリテ、形ハ球狀乃至横橢圓形ナリ、大サハ縱徑0.07—0.085 mm、横徑0.075—0.09 mmアリ。腸管分岐部ノ下際ニテ腹吸盤トノ間ニハ貯精囊ノ原基アリ。又腹吸盤ノ兩側部ニハ球狀乃至橢圓形ノ睪丸原基相對立シテ認メラル、睪丸原基ノ大サハ直徑0.035—0.042 mmアリ。右睪丸原基ノ下部ニテ腹吸盤ノ下際ニ一致セル部位ニハ球狀ヲ呈セル卵巢原基アリ、其ノ大サ直徑0.03—0.04 mmアリ。排泄囊ハ被囊幼蟲ノ時期ニ於ケル暗黒色ノ色素顆粒ハ大部分既ニ體外ニ排泄セラレ一見シテ甚シク濃度ヲ減ジ淡灰色ナリ。

試食後7日目ノ本蟲ハ體長0.65—0.85mm(平均0.8mm)ニシテ幅徑0.35—0.45mm(平均0.4mm)アリ。口吸盤ハ尙著大ニシテ縱徑0.14—0.145mm, 幅徑0.15—0.155mmアリ。咽頭ハ縱徑0.05mm, 横徑0.05mmアリ。食道ハ長サ0.05—0.065mmヲ算シ直ニ左右ノ腸管ニ分岐ス。腸管ハ略同長ニシテ0.25—0.275mm, 幅徑0.04—0.045mmアリ。腹吸盤ハ口吸盤ヨリモ稍小サク。形ハ球形ニシテ縱徑0.095—0.105mm, 横徑0.095—0.1mmアリ。貯精囊ハ幼稚ナレドモ腸分岐部ト腹吸盤トノ間ニ存在シ縱徑0.085mm, 幅徑0.065mmアリ。辜丸ハ腹吸盤ノ左右兩側ニ對向シテ存在シ形ハ球狀乃至橢圓形ニシテ大サハ略同大ナリ。長徑0.075—0.08mm, 短徑0.06—0.075mmナリ。卵巢ハ右辜丸ノ下部ニ在リテ形ハ球形ニシテ大サハ辜丸ト殆ド同大ニテ直徑0.075mmアリ。子宮内ニハ漸ク2—3箇ノ卵子ノ形成セラレルモノアルヲ見ル。

試食感染15日目ノ本蟲ハ稍發育シ長徑1.05—1.25mm, 幅徑0.4—0.45mmニ達ス。此ノ時期ニ於テ特ニ後體部ノ子宮内ニ於テ其ノ走行ニ從ヒ卵子ノ點在スルヲ認メラルルニ至ル。口吸盤ハ縱徑0.175—0.185mm, 幅徑0.175—0.18mmニシテ腹吸盤ニ比シ著シク大ナリ。咽頭ハ縱徑0.05—0.055mm, 横徑0.05—0.07mmアリ。食道ハ長サ0.075—0.1mm, 幅徑0.035mmアリ。腹吸盤ハ形略正圓形ニシテ縱徑0.1—0.12mm, 幅徑0.1—0.125mmナリ。腸管ハ左右概ネ同長ナレドモ常ニ必シモ一様ナラス。長徑0.18—0.21mm, 幅徑0.075—0.085mmアリ。貯精囊ハ腸分岐部ト腹吸盤トノ間ニ在リテ橢圓形ノ囊狀ヲ呈シ長徑0.06—0.065mm幅徑0.04—0.045mmナリ。辜丸ハ腹吸盤ノ兩側ニ並立シ腸脚ノ内側ニ位ス。形ハ球狀乃至橢圓形ニシテ左右辜丸ノ大サハ概ネ同等ナリ。縱徑0.075—0.115mm, 横徑0.06—0.095mmナリ。卵巢ハ形球狀ニシテ直

第

4

發 育 日 數	長 徑 (mm)	幅 徑	口 吸 盤	咽 頭	食 道	腹 吸 盤
24時間目	0.375—0.55	0.17—0.25	0.09—0.115 ×0.09—0.12	0.035—0.04 ×0.032—0.04	0.06—0.08 ×0.02—0.025	0.07—0.085 ×0.075—0.09
7・日目	0.65—0.85	0.35—0.45	0.14—0.145 ×0.15—0.155	0.05 ×0.05	0.05—0.065	0.095—0.105 ×0.095—0.1
15日目	1.05—1.25	0.4—0.45	0.175—0.185 ×0.175—0.18	0.05—0.055 ×0.05—0.07	0.075—0.1 ×0.035	0.1—0.12 ×0.1—0.125
25日目	1.7—1.9	0.65—0.75	0.2—0.225 0.21—0.235	0.05—0.075 ×0.05—0.08	0.05—0.065 ×0.035	0.18—0.185 ×0.18—0.2

徑 0.075—0.095 mm, 稀ニ 0.11 mm ニ達スルモノアリ。卵黄巢ハ咽頭ノ下際ヨリ兩腸脚ノ上部ニ亙リ, 體ノ兩側部ニ相對性ニ點在ス。咽頭ノ兩側部及ビ卵黄巢ノ上部ニハ頸腺細胞ヨリ發シタル導管ノ口吸盤ノ兩側部ヲ上行セル痕跡ヲ尙認メラルモノアリ。體ノ表面ニハ皮棘ノ發生ヲ認ムルコト前ト同シ。

試食後 25 日目ノ蟲體ハ長徑 1.7—1.9 mm, 幅徑 0.65—0.75 mm ナリ。口吸盤ハ縱徑 0.2—0.225 mm, 横徑 0.021—0.235 mm アリ, 口吸盤ノ下部ニハ短キ前咽頭ニ次テ咽頭ヲ認ム。咽頭ノ大サハ縱徑 0.05—0.075 mm, 幅徑 0.05—0.08 mm アリ。食道ハ長サ 0.05—0.065 mm, 幅徑 0.035 mm アリテ直ニ兩腸管ニ分岐セリ。腸管ハ左右略同長ニシテ 0.4—0.45 mm アリ, 盲端部幅徑 0.095—0.1 mm アリ。腹吸盤ハ縱徑 0.18—0.185 mm, 横徑 0.18—0.2 mm アリ。貯精囊ハ兩腸分岐部ノ下際ニテ腹吸盤トノ間ニ在リテ形橢圓形ノ袋狀體ナリ, 長徑 0.16—0.175 mm, 幅徑 0.075—0.08 mm ヲ算ス, 睪丸ハ兩吸盤ノ兩側部ニ在リテ腸管ノ内側ニ位シ球形乃至橢圓形ナルコトアリ, 大サハ左右略同大ニシテ縱徑 0.08—0.1 mm, 幅徑 0.055—0.06 mm アリ。卵巢ハ球形狀ニシテ直徑 0.085—0.1 mm アリ。受精囊ハ縱徑 0.06 mm, 幅徑 0.025—0.035 mm ノ橢圓形ノ囊狀體ナリ。卵黄巢ハ咽頭ノ下部ヨリ腸管ノ間ニ相對的ニ限局シテ點在シ濾胞顆粒ハ帶灰暗褐色ナリ, 此ノ時期ニ至レハ子宮ハ著シク發達シ内ニ卵子ヲ充滿ス。

試食後 35 日以上ヲ經過セル蟲體ハ時日ノ經過ト共ニ漸次發育成熟シ, 遂ニ最大ナルモノハ體長 2.75—2.9 mm ニ達シ, 子宮内ニハ無數ノ卵子ヲ充滿スルニ至ル。

以上本蟲發育ノ狀態ヲ一括表示スレバ次ノ如シ。

表

腸 管	貯 精 囊	睪 丸	卵 巢	備 考
0.09—0.135 × 0.035—0.04	—	0.035—0.042	0.03—0.04	睪丸及ビ卵巢ハ直徑ヲ示ス
0.25—0.275 × 0.04—0.045	0.085 × 0.065	0.075—0.08 × 0.06—0.075	0.075	子宮内ニハ漸ク 2, 3 箇ノ卵子ノ形成セラルルヲ見ル
0.18—0.21 × 0.075—0.08	0.06—0.065 × 0.04—0.045	0.075—0.115 × 0.06—0.095	0.075—0.095	子宮内ニハ未ダ卵子多カラザルモ成熟セル卵子ヲ認ム
0.4—0.45 × 0.095—0.1	0.16—0.175 × 0.075—0.08	0.08—0.1 × 0.055—0.06	0.085—0.1	受精囊 0.05—0.06 × 0.025—0.035

第 7 章 本吸蟲ノ終末宿主ニ就テ

本吸蟲ハ最初＝「にほんひきがへる」＝於テ自然寄生ヲ證明セルモノナルガ、其ノ後實驗的研究ニ依リウしがへる、どのさまがへる、つちがへる＝於テモ發育スルコトヲ確認シタリ、余ハ尙最近しまへび及ビどかげ＝於テモ本蟲ノ自然寄生セルコトヲ認メタリ。

即チ本蟲ノ終末宿主ハ次ノ 6 種類ナリ。

1. *Bufo vulgaris japonicus* (Schlagel) にほんひきがへる
2. *Rana nigromaculata* (Hollowell) どのさまがへる
3. *Rana rugosa* (Schlegel) つちがへる
4. *Rana cateshiana* (Show) うしがへる
5. *Elaphe quadrivirgata* (Boie) しまへび
6. *Eumeces latiscutatus* (Hallowell) どかげ

叙上ノ内本蟲ノ自然的固有終末宿主トシテハ、にほんひきがへる、しまへび及ビどかげガ主要ナルモノノ如シ。

第 8 章 結 論

1. 余ハ本邦産蝸牛ノ 1 種「ヒダグリマキマイマイ」*Euhadra quaesita* (Deshayes) ノ生殖腺ニ寄生セル「ツエルカリア」ノ發育ニ就テ攻究シ、遂ニ此ノ「ツエルカリア」及ビ其ノ成熟被囊幼蟲ハ余ガ囊ニ蝦蟇 *Bufo vulgaris japonicus* ニ於テ初メテ發見シタル 1 種ノ吸蟲ニ體制全ク相一致セル吸蟲ニ發育スルモノナルコトヲ確認シ、之ガ發育史ヲ闡明シ得タリ。

2. 「ヒダグリマキマイマイ」ヲ第 1 中間宿主トシ、其ノ生殖腺ニ於テ認メラルル「ツエルカリア」ハ成熟スルヤ「スポロシスト」自體內ニ在リテ既ニ被囊ヲ形成シ成熟被囊幼蟲ニ達シ感染力ヲ保有ス。又同貝ノ肝臟内ニ於テモ被囊シ得ル可能性ヲ有ス。

3. 本種「ツエルカリア」及ビ被囊幼蟲ハ水ニ對スル抵抗力ハ甚微弱ニシテ淨水中ニ於テハ 12 時間乃至 20 時間以内ニ於テ悉ク死滅ス。

4. 本種被囊幼蟲ハ實驗的ニ之ヲ哺乳動物及ビ鳥類ニ與フルニ其ノ體內ニ於テハ全ク發育スルコト能ハザルモ、どのさまがへる、つちがへる、食用蛙及ビ蝦蟇ノ消化管内ニ於テハ容易ニ脱囊シ、幼蟲ハ小腸内ニ於テ漸次成長ス、就中蝦蟇ハ本吸蟲ノ最モ好適ナル固有終末宿主ナルモノノ如シ。

5. 本吸蟲ハ蝦蟇ノ消化管内ニ在リテハ、試食後 25 日ニシテ成蟲ニ發育シ産卵スルニ至ル。而シテ本蟲ノ體制及ビ卵子ノ形態構造ハ、余ガ自然的ニ蝦蟇ノ小腸ニ認メタル 1 種ノ吸蟲並其ノ卵子ニ正シク相一致ス。

6. 余ハ此ノ「ヒダグリマキマイマイ」ヲ第 1 中間宿主トシ其ノ「スポロシスト」自體內ニ於テ直ニ被囊ヲ形成シ成熟被囊幼蟲ニ達スルノ特有性ヲ有シ、而シテ以テ同時ニ之ヲ第 2 中間宿主ト

爲シ蝦蟇ヲ固有終末宿主トセル 這般ノ一新吸蟲ニ就テハ東京帝國大學名譽教授五島博士ノ御指導並御教示ニ基キ、之ニ學名ヲ *Mesocoelium brevicæcum* n. sp. ト命名シタリ。

7. 本蟲ノ固有終末宿主體內ニ於ケル寄生部位ハ小腸ナリ、而シテ其ノ多クハ深く絨毛間ニ口端部ヲ介在シ吸盤ニ依リ固ク粘膜ニ吸着ス。

8. 本吸蟲ノ卵子ハ淡黃淡褐色ニシテ長徑 0.0475—0.0485 mm (平均 0.0481 mm) ニシテ幅徑 0.0275—0.03 mm (平均 0.0286 mm) ナリ、内ニ仔蟲ヲ藏ス。

筆ヲ擱クニ當リ本研究ニ對シ終始御懇篤ナル御指導ト本稿ノ校閲ヲ忝セル桂田博士ニ厚ク敬謝ノ意ヲ表シ茲本研究及ビ本吸蟲ノ學名ニ關シ多大ナル御指導ヲ賜リタル五島理學博士ニ謹テ感謝ノ意ヲ致シ、又本研究ノ發表ニ就キ多大ナル御厚意ヲ忝セル岡山醫科大學田部教授並尾崎佳正氏ニ謹謝シ次デ高龜博士並淺田博士ノ始終御援助ヲ賜リタル御厚意ヲ深ク感謝ス。(4. 10. 16. 受稿)

文 獻

- 1) André, E. 1915. *Mesocoelium carli* n. sp. trématode Parasite d'une tortue africaine. Rev. Suisse Zool., XXXIII, p 91—93. 2) Bhalerno, G. D. 1927. A new species of torematode from *Mabia dissimilis*. Ann. Mag. Nat. Hist., Ser. 9, Vol. XX, p. 611—615. 3) Johnston, S. J. 1912. On some torematode parasites of Australian frogs. Proc. Linn. Soc. N. S. Wales, XXXVII, p. 285—392, pl, 1—30. 4) Travassos, L. 1921. Trematodeos novas III. Brasil Medico, XXXV, p. 221—223. 5) 吉田貞雄, 「とのさまがへる」ニ寄生セル吸蟲ノ1新種ニ就テ, 動物學雜誌, 第316號. 6) 妹尾秀實, 日本産「ヂストマ」動物學雜誌, 第222號, 第230號, 第232號. 7) 田部浩, 複殖吸蟲類發育知見補遺, 1新吸蟲 *Lepoderma Muris* n. sp. ノ研究, 岡山醫學會雜誌, 第385號. 8) 平澤一三, 淺田順一, *Lepoderma Muris* ノ發育史ニ關スル研究, 特ニ本吸蟲ノ第1及ビ第2中間宿主並其ノ終末宿主ニ就テ, 東京醫事新誌, 第2614號. 9) 小野定雄, 南滿洲ニ於ケル鷄卵吸蟲 *Prosthogonimus Putschkowokii* ノ發育史, 日本獸醫學會雜誌, 第7卷, 第4號. 10) 越智シゲル, 淡水棲昆蟲ノ幼蟲ヲ中間宿主トセル吸蟲類ノ1新被囊幼蟲ニ就テ, 東京醫事新誌, 第2589號.

附 圖 說 明

- | | |
|---------------------------------|--|
| 第1圖 本吸蟲ノ第1中間宿主(ヒダリマキマイマイ). 實物大. | 第5圖 試食後7日目ノ幼若ナル蟲體(約43倍). |
| 第2圖 「スポロシスト」(約30倍). | 第6圖 試食後15日ヲ經過セル本吸蟲(約37倍). |
| 第3圖 「ツエルカリア」(約205倍). | 第7圖 <i>Mesocoelium brevicæcum</i> , n. sp. 成蟲(約33倍). |
| 第4圖 被囊幼蟲(約210倍). | 第8圖 本吸蟲ノ卵子(約350倍). |

Kurze Inhaltsangabe.

**Über die Entwicklungsgeschichte von
Mesocoelium brevicæum n. sp.**

Von

Sigeru Ochi.

Aus dem Institut für Schiffs- und Tropenkrankheiten zu Kobe.

(Direktor : Prof. F. Katsurada.)

Eingegangen am 16. Oktober 1929.

Verf. fand im Darmkanal von *Bufo vulgaris japonicus* mehrere Exemplare einer bisher nicht beschriebenen Trematodenart, *Mesocoelium brevicæum n. sp.* Der Zwischenwirt des Wurmes ist eine Schneckenart, *Euhadra quaesita (Deshayes)*, in der sich die Cercarien im Innern von Sporocysten entwickeln und sich z. T. hier encystieren. Als Endwirt wurden ferner folgende Tiere bestätigt: *Rana nigromaculata Hallowell*, *Rana rugosa Schlegel*, *Rana catesbiana Shaw*, *Elaphe quadrivirgata (Boie)*, *Eumeces latiscutatus (Hallowell)*. (Autoreferat.)



越智論文附圖

Fig. 8.



Fig. 1.

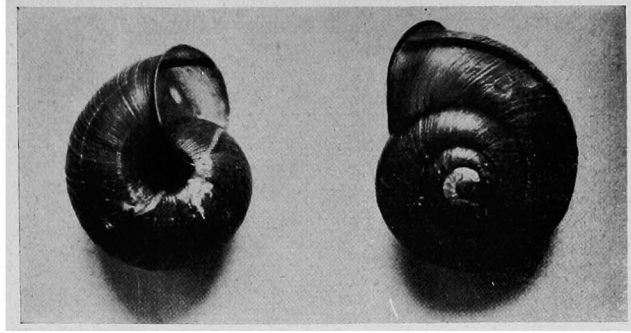


Fig. 7.

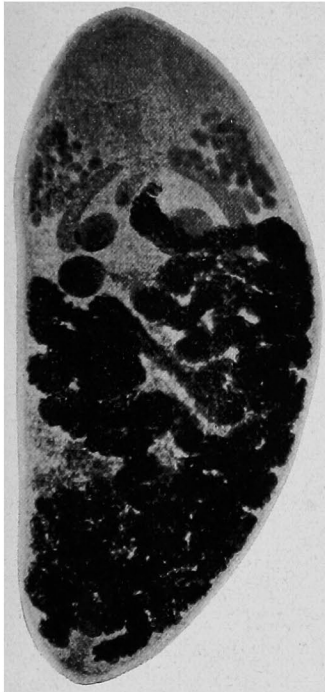


Fig. 3.

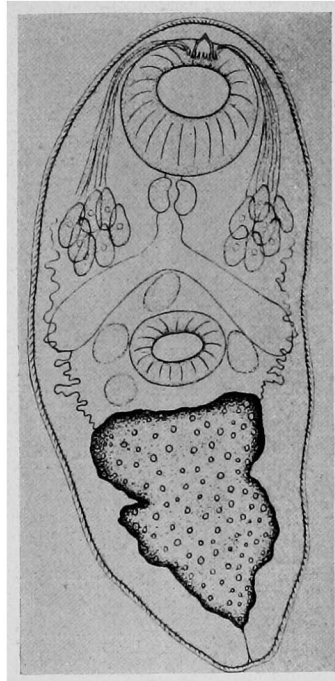


Fig. 2.

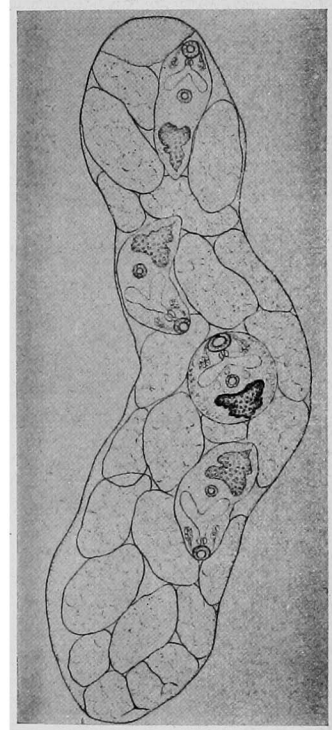


Fig. 4.

Fig. 6.



Fig. 5.

